



CSRレポート

CSR Report

2020

| | |
|--------|--|
| 社名 | 株式会社要興業 |
| 本社 | 〒171-0014 東京都豊島区池袋2-14-8 池袋エヌエスビル |
| TEL | 03-3986-5341(代) |
| 代表者 | 代表取締役社長 木納 孝 |
| 設立 | 1973年4月 |
| 資本金 | 8億2,773万6,875円 |
| 従業員数 | 391名(2020年3月末日時点)、単体 (注)アルバイト・パートタイマー等252名は、上記従業員に含まれておりません。 |
| 収集運搬車両 | 315台(2020年3月末日時点)、単体 |
| 事業内容 | 収集運搬・処分事業(一般廃棄物、産業廃棄物、特別管理産業廃棄物) リサイクル事業(再生資源の販売) 行政受託事業(行政委託資源物の処理) |



| | |
|------|--|
| 経営理念 | 環境保全と循環型社会に貢献する企業であること |
| 経営方針 | 1 快適な都市生活と資源の循環を推進するため 適正な廃棄物処理と資源リサイクルを業とします 2 お客様から信頼される質の高いサービスを提供します 3 関係する行政、企業、地域との共生を図ります 4 持続発展をめざし、株主と社員を大切にします |

CSR基本方針

- 株式会社要興業は、総合廃棄物処理・リサイクル業者としての活動の軸である「適正処理」「リサイクルの推進」を活かして本業を通じたCSR活動を強化する。
- 株式会社要興業は、SDGsの目標も踏まえつつ、国際規格ISO26000/国内規格JIS Z 26000を活用してCSR活動を進める。これら規格の7つの中核主題である組織統治、人権、労働慣行、環境、公正な事業慣行、消費者課題、コミュニティへの参画及びコミュニティの発展に関する取り組みを行う。
- 株式会社要興業は、ESD(持続可能な開発のための教育)の考え方を取り入れ、CSR/CSV活動を実践できる「人づくり」を行う。

以上により、社会に求められる企業として価値を向上させ、持続可能な開発目標(SDGs)の達成に寄与しつつ、地域社会に根差した総合廃棄物処理・リサイクル業者を目指す。



ご挨拶

2020年4月、代表取締役社長に就任いたしました。1972年の創業から48年となりますが、「環境保全と循環型社会に貢献する企業であること」という経営理念を受け継ぎ、更なる成長と発展に向けて尽力して参ります。

本業を通じたCSR

CSR基本方針でお示ししている通り、当社にとってのCSRとは事業活動そのものでございます。当社の継続的発展と事業の拡大が社会貢献へつなげると考えております。

リサイクルの推進

当社は8か所のリサイクルセンターで廃棄物を処理しています。当社のリサイクルセンターで処理を行うことで、資源の再利用や埋立処分の削減が可能となります。今後も生産性を向上させ、より多くのリサイクルを実現させたいと考えております。

法令遵守

何かと規制の多い当業界です。今年も引き続き「三法遵守」のスローガンを掲げ、労働基準法、道路交通法、そして廃棄物処理法の三法の遵守を、全社一丸となり徹底致します。

安全運転への取り組み

「安全運転日本一」の旗印のもと、収集運搬車両の交通事故ゼロへ向けて取り組んでいます。ドライバーへの教育はもちろん、車載設備も充実させて取り組みを推進してまいります。

地域社会への貢献

廃棄物処理業を営む上で地域の方のご理解を頂くことは重要です。ごみ拾い運動の実施や地域の交通安全運動への参加、資源買取市への参画等を通じて近隣の皆様と積極的にコミュニケーションをとっております。

代表取締役社長 **木納 孝**

不燃ごみのリサイクルを大きく推進

当社は東京23区の各区において、一般家庭から収集した不燃ごみのリサイクルを進めています。

当初は東京23区某区の不燃ごみを処理することから始めたこの事業ですが、2020年3月期も昨年度と同じく6つの区と取り組みを推進することができました。この事業は埋め立てられているごみを

資源として循環させる事業です。「環境保全と循環型社会に貢献する企業であること」という経営理念のもと、今後も発展させていきます。



入谷リサイクルセンターの選別ライン



入荷した資源物を仕分けしていきます



新鹿浜リサイクルセンターの手選別



リサイクルのための手選別です



板橋リサイクルセンターの作業場面



手選別することで再資源化できます

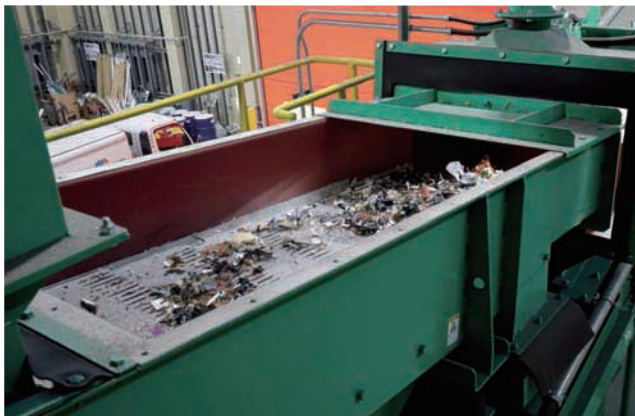
粗大ごみの処理施設の拡大を推進



完成した縦型破碎機、中央の円柱部分で破碎が行われます

オフィス・店舗の改装や移転に伴い発生する粗大ごみ。スクラップ&ビルドが進み、事業所の新陳代謝が毎日のように繰り返される東京23区においては粗大ごみも大量に発生しています。ですが東京23区内において粗大ごみをリサイクルさせる施設は少ないため、大量の粗大ごみが焼却や埋め立てに回っているのが現状です。当社ではそれら大量の粗大ごみをリサイクルさせるため、鹿浜リサイク

ルセンターの粗大ごみ破碎施設をリニューアルさせる取り組みを推進中です。2020年3月期にはその第一段が終わり、東京23区の民間施設では最大級の縦型破碎機を稼働させることができました。今後もリニューアルを続けていきます。



篩にかけられ細かい物は下へ、非鉄金属が奥のヤードへ運ばれます



破碎されて小さくなった金属くず

ISO26000を活用したCSRへの取り組み

当社は、経営理念を「環境保全と循環型社会に貢献する企業であること」としています。

この経営理念を実現するためには、地域社会との信頼関係の構築、環境への配慮、安全性の向上などに対する継続的な取り組みが必要です。

したがって、当社では事業活動とCSRが密接に関わっており、従業員が業務を通して社会への責任を果たすことが求められます。

このような考えから、当社では社会的責任に関する

国際規格であるISO26000^(※1)をふまえて、7つの中核主題を活用しながらCSR活動を推進しています。

また、当社はSDGs^(※2)をISO26000の7つの中核主題において関連のある主題に位置付け、CSR活動の目標として取り入れました。

中でも、「12.つくる責任、つかう責任」を重点テーマとしています。当社の取り組みにより社会の持続可能な発展に貢献していくことは、SDGsの達成にも寄与すると考えます。



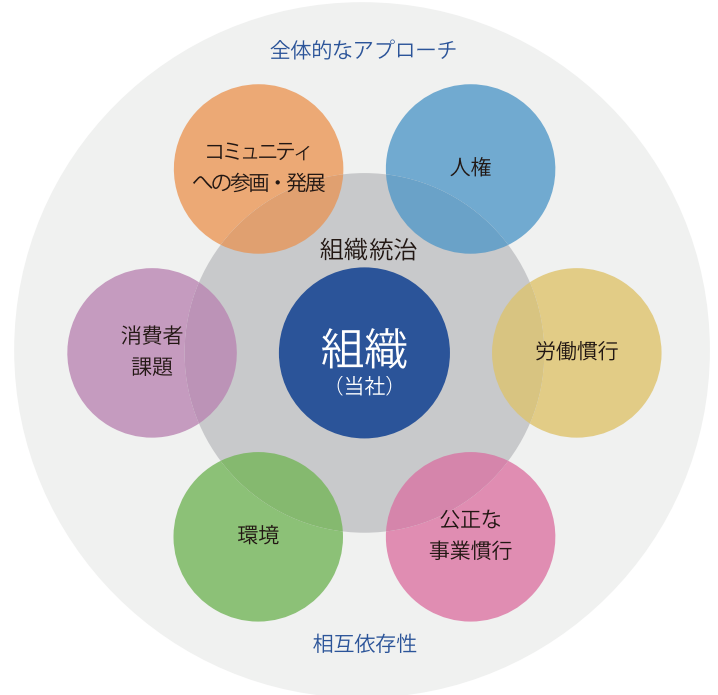
ISO26000の中核主題

ISO26000の7つの中核主題を活用した当社CSR活動

※1 ISO26000とは

ISO(国際標準化機構)が2010年11月に発行した、組織の社会的責任に関する国際規格です。企業だけでなく、国や地域などあらゆる組織で自主的に活用されるよう作られました。従来のような認証規定としてではなく、社会的責任を組織文化に取り入れるための「手引き」という位置付けとなっています。日本では、経団連が企業行動憲章改定の際にこの規格を参照しています。

具体的な取り組みとして7つの中核主題(組織統治、人権、労働慣行、環境、公正な事業慣行、消費者課題、コミュニティへの参画及びコミュニティの発展)から構成されています。



ISO26000の7つの中核主題

※2 SDGsとは

2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発目標(SDGs:Sustainable Development Goals)」のことを示します。SDGsは、2016~2030年の15年間で、国連に加盟している193か国が解決すべき社会的課題として掲げられ、17の目標と169のターゲット(具体目標)で構成されています。

SDGsは2000年の国連サミットで採択された「ミレ

ニアム開発目標(MDGs:Millennium Development Goals)」が2015年に達成期限を迎えたことを受け、新たな世界の目標として定められました。MDGsが先進国による途上国の支援を中心とする内容であったのに対して、SDGsは先進国と途上国が一丸となって達成すべき目標で構成されていることが特徴です。



SDGsの17の目標。全社一丸となり、これらの目標に取り組みます



適時適切な情報開示

当社は、金融商品取引法などの関連諸法令や上場している東京証券取引所の適時開示規則にのっとり、公平・公正な情報開示を心掛けています。

また、これらの法令や規則では開示を必要としない情報でも、開示可能で、投資家の皆様の投資判断に関わると当社が考える情報については、迅速かつ継続的に提供することを基本方針としています。

2020年3月期は、TDネット等を通じた情報開示と同日に、全ての開示情報を自社のホームページでも開示いたしました。また2019年3月期の決算説明会、2020年3月期第2四半期の決算説明会に関しては、資料及び決算説明会時の動画も開示いたしました。

適時適切な情報開示を実施することにより、当社グループの経営状況や事業活動状況を十分にご理解いただき、企業価値を適正に評価していただくことを目指しています。



当社コーポレートサイトでの情報開示

障がい者等の雇用を推進中

当社では、主にリサイクルセンターにおいて障がい者、外国人の雇用を推進しています。障がい者雇用に関しては、各種支援センターと連携して推進しており、2020年3月時点で11名が在籍しています。中には貴重な戦力として定着し、20年近く働いて

いるスタッフも複数在籍しています。近年は外国籍の方にも働く場を提供しております。また生活困窮者（生活保護からの自立支援）等の社会復帰にも貢献中です。



入谷リサイクルセンター



入谷リサイクルセンターでの資源物選別作業の様子

地域社会への貢献



地域社会への貢献活動の一つとして、今年度は足立区に寄附を致しました。

「美しいまち」を印象付けることで犯罪を抑止しようとする足立区独自の運動「ビューティフル・ウィンドウズ運動」に対して寄附させていただきました。当社の従業員の多くが住む区でもあるため、取り組みの一助になればと考えています。

また豊島区にかつてあった、手塚治虫・藤子不二雄・石ノ森章太郎・赤塚不二夫といった日本が誇るマンガ家が住んでいたトキワ荘の再現施設である「豊島区立トキワ荘マンガミュージアム」は順調に建設が進み、2020年3月の段階でオープンを待つだけの状態に至りました。こちらにも、年度は2019年3月期になりますが、地元豊島区への地域コミュニティへの貢献の一環として寄附させていただきました。



足立区の近藤区長(中央右)



豊島区の高野区長(右)

ごみ拾い運動の継続実施



当社の足立支社は、一般廃棄物を始めとした収集運搬部門のコントロールセンターであり、またお客様への請求業務を始めとしたシステム管理の拠点でもあります。

この支社においては、当社社員による毎朝の近隣のごみ拾い活動を、2020年3月期も継続して行うこ

とができました。また今年も、この清掃活動に対して足立区から感謝状を贈呈されました。廃棄物を扱う会社だからこそ近隣の環境は守りたい。そういった意識から始めたこの活動。近隣の方に気持ち良い朝を迎えていただくために継続していきたい活動です。



道に落ちている小さなごみも見逃しません



毎朝こちらのユニフォーム姿で拾っています

廃棄物セミナーの開催

当社が排出事業者の皆様提供している廃棄物セミナー。複雑で難解な廃棄物処理法を理解していただくために継続して開催しているセミナーですが、2020年3月期は31回開催することができました。今年度はセミナーの内容を大きく改善させました。通常の廃棄物セミナーにおいては、当社リサイクルセンターの廃棄物処理の映像を活用することに



映像でリサイクルセンターでの処理の様子が確認できます

より、参加者の廃棄物処理への理解をより深めることができました。また通常のセミナーに加え、外部の有識者に有益な情報を提供していただくスペシャルセミナーも4回開催することができました。質の高いセミナーをお客様に提供し、適正処理とリサイクル推進への理解を頂くことは当社の使命と考えています。



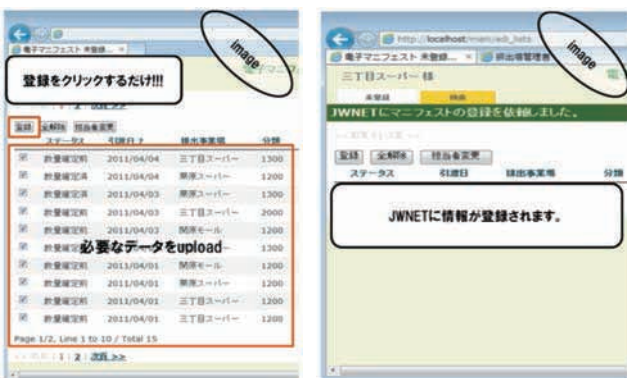
スペシャルセミナー開催時の様子

電子マニフェストの推進

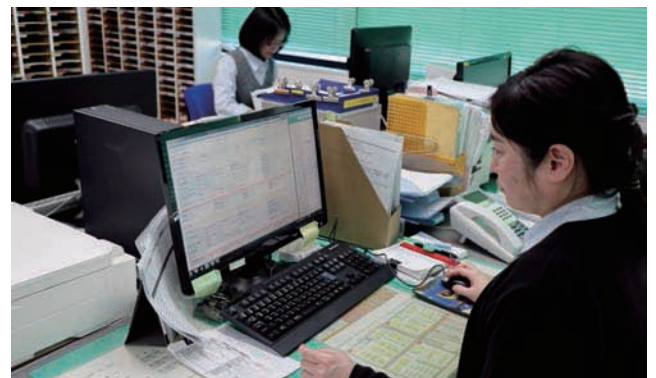
産業廃棄物を処理委託する際に、排出事業者が発行が義務付けられているのが産業廃棄物管理票、いわゆるマニフェスト伝票であり、それを電子化したのが電子マニフェストです。

2017年の廃棄物処理法改正でも一部義務化が決定されたように、電子マニフェストを普及させることは、いわば国策となっています。

当社は「電子マニフェスト登録サポートシステム」を自社で開発し、顧客に提供しています。これにより、排出事業者は、従来の電子マニフェストの運用と比べて格段に簡単に電子マニフェストを登録できるようになりました。この取り組みは現在も推進中で、電子化は全現場の7割を超えるまでに至りました。



電子マニフェスト登録サポートシステムの説明



従業員によるシステム運用の様子

環境マネジメントシステムの推進



廃棄物処理を営む当社にとって、環境マネジメントシステムの推進は、まさに事業の要といっても過言ではありません。

2011年からは、環境マネジメントシステムの国際規格ISO14001の認証取得が国が定める産業廃棄物処理業の優良許可制度の条件の一つに指定さ

れるなど、業界の中でも取り組みの推進は推奨されています。

当社は、2002年にISO14001の認証を取得して以降、認証を維持しています。2020年3月期も、すべてのリサイクルセンターで取り組みを推進し、外部審査機関による認証登録を維持することができました。



ISO14001の認証登録証、HPからダウンロードできます



新鹿浜リサイクルセンターにおける外部審査の様子

情報セキュリティマネジメントシステムの推進



当社は通常の廃棄物処理に加え、“機密書類・媒体の処理”も行っています。セキュリティ設備を施した特殊な車両を用いて複数のスタッフで収集運搬を行い、厳重な警備がされている施設で書類等の裁断を行うこのサービスですが、2007年11月に情報セキュリティマネジメントシステムの国際規格ISO27001の認証を取得し、現在に至るまで毎年の

外部審査を受審し、認証を維持しています。セキュリティへのお客様の期待は今後も高まっていくことは間違いありません。今後もその期待に答えることができるように、また全社でのセキュリティレベルを維持するためにも継続して取り組んでいく所存です。



外部審査の様子



足立支社でのISMS定例教育の様子

蛍光灯の処理能力の拡大

蛍光灯は、微量の水銀が封入されているため「水銀使用製品産業廃棄物」というカテゴリーに属する特殊な廃棄物となります。適正処理を行うためには水銀を外部に漏らさないように封入する施設と、水銀を処理できる提携先との取引が必須となります。当社では従前より適正処理のため鹿浜リサイクルセンター、大森リサイクルセンターの2



リサイクルセンターに運ばれてきた蛍光灯

箇所に専用の施設を設置して処理し、国内有数の処理先と取り引きをして参りました。

今年度は、不燃ごみ専用の板橋リサイクルセンターにも施設を増設し、適正処理の推進へ更に一歩進めることができました。



こちらの施設に投入して安全に破碎します

スプレー缶の処理施設の新設

スプレー缶・ガス缶・ライター類は、中に可燃性のガスが封入されている可能性が高いため、扱い方によっては発火し、火災に繋がることもある危険な廃棄物です。2020年3月期は、これらを安全に取り扱うため板橋リサイクルセンターに専用の施設を設置しました。スプレー缶等の処理対象物を処理タンクに投入後は、スイッチを押すだけで処理タ



一番奥の施設はライターも破碎できる刃になっています

ンク内を減圧(真空処理)し、少量の不活性ガス(窒素)を封入して酸素濃度を減らしてから破碎する方式の施設のため、火災のリスクも労働安全衛生上のリスクも負うことなく処理することが可能になり、処理対象物の多くは金属としてリサイクルに回すことができるようになりました。



空のスプレー缶が破碎されて金属くずになりました





ペットボトルの大型圧縮機の導入

ビン・缶・ペットボトル等の飲料容器は、当社が扱う品目の中でも大きな割り合いを占める廃棄物であり、またリサイクルルートが確立しているリサイクルの優等生でもあります。

その中でもペットボトルは事業者から排出されるものだけでなく一般市民から排出されるものも自治体から受託する形で処理しているため、年々量

が増えています。

2020年3月期は、事業系の飲料容器類をメインに処理している大森リサイクルセンターのペットボトル圧縮機を大型のものに刷新いたしました。

この圧縮機を活用し、より効率の良い処理を行っていきます。



ペットボトルの大型圧縮機

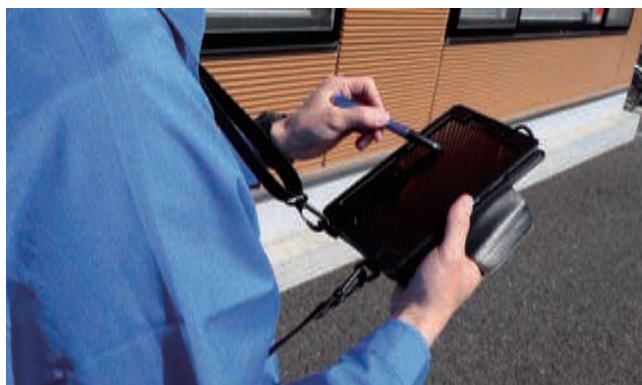


完成したペットボトルベール

タブレット端末の本格導入

当社では、従来より一部の収集運搬車両にハンディ端末を導入し、業務の効率化とペーパレス化を推進してきました。2020年3月期は、全ての車両部門で活用することを目指して新しく開発したタブレット端末を本格的に導入することができました。従来、収集運搬の際にはドライバーが紙の作業日報を携帯し、回収量等を手書きで記入してしまし

た。ハンディ端末の導入により作業日報を電子化することで、ドライバーが入力した数値がダイレクトに社内システムに反映されるようになりました。大幅に作業工程を短縮することができたと同時に、毎日発行している作業日報や地図などの紙媒体を削減することにも繋げることができました。



タッチペンでスイスイ操作できます



端末ひとつでデータの入力も地図の閲覧も可能になりました

各種訓練の実施

当社では毎年春、全てのリサイクルセンター及び足立支社において自衛消防訓練を実施しています。2020年3月期においても例年同様実施することができました。地域の消防署に協力していただき、避難訓練、模擬消火器を利用した初期消火訓練、通報設備を利用した通報訓練を行いました。また9月には首都直下型地震を想定しての全社一斉での防災訓練を実施しました。避難経路の確認や担架を使ったけが人の搬送を実際に行うことにより万が一の際に焦らず行動するための備えになりました。当社は2019年夏季に関東地方を中心に起こった大規模な水害による影響は受けませんでした。今年より水害を想定とした車両の避難訓練も開始いたしました。気候変動リスクに備えることで、より安定した廃棄物の処理ができることを目指しています。



消火器の扱い方の説明を聞く従業員たち



足立支社における初期消火訓練の様子



リサイクルセンターでの暑さ対策

2019年の夏は猛暑でした。当社のリサイクルセンターでは作業環境を維持するべく様々な暑さ対策を行いました。まず挙げられるのが手選別ラインを対象としたスポットクーラーの設置です。これにより、ラインのスタッフは従前の環境よりも快適な環境で働くことができるようになりました。またラ

インではないスタッフには空調服や冷却ベストといったアイテムを支給するといった対策を講じました。それらと合わせて長めの休憩や水分補給の推奨等を行う等、様々な対策を施すことにより夏を乗り切ることができました。



手選別ライン上には冷風を送るスポットクーラー



ファンで風が送り込まれて膨らんだ空調服



安全運転への取り組み

多くの運搬車両を抱えている当社にとって、安全運転・事故防止の取り組みは、いわば社会的な使命です。2020年3月期も、「安全運転日本一」の旗印のもと、様々な取り組みを展開してまいりました。ハード面では昨年度と同様、衝突被害軽減ブレーキシステムを搭載した車両を継続して導入し、事故防止のためのドライブレコーダも活用しています。ソフト面では専門家による各種研修会の開催、ミ

ーティングの開催等、従来より行っている活動も継続いたしました。ハード面とソフト面を駆使した様々な取り組みを駆使することにより、重大な事故の予防を達成することができました。それらの取り組みに加えて地域全体の交通安全に貢献するべく、春と秋に開催される全国交通安全運動への参加や、交差点各所での立哨活動も継続して実施しています。



交差点での立哨活動の様子



ブレーキシステムのセンサー

資源買取市への参画



足立支社、鹿浜・新鹿浜・千住・入谷リサイクルセンター、整備工場を始めとした多くの車両基地等、当社が多くの拠点を置く足立区は、さらなるごみの減量化・資源化を推進していくために、区内リサイクル関連事業者との協働により「資源買取市」を実施しています。

2020年3月期も、当社は参画企業の一社として毎月資源買取市を実施しました。これにより、地域社会全体におけるリサイクルの推進とご来社いただいた区民の方ときちんとコミュニケーションを取ることにより、地域コミュニティの向上に寄与することができました。



のぼりが目印、当社駐車場で実施しています



集まった資源物は、全てリサイクルに回ります

株式会社要興業

CSRレポート2020



本社

〒171-0014 東京都豊島区池袋2-14-8 池袋エヌエスビル
TEL : 03-3986-5341(代) FAX : 03-3986-6266
URL : <https://www.kaname-k.co.jp/>

足立支社

〒123-0864 東京都足立区鹿浜7-9-2
TEL : 03-3853-5341(代)

お問い合わせ

経営企画室 TEL : 03-3986-5352